

1 市民等との協働事業について

| | |
|-----|---|
| 委員長 | <p>・ 前回の会議で森委員から青梅市が早い時期に協働の取り組みに着手していた聞いたことを聞き、長年積み上げてきたことの大切さを感じた。様々な市が経験を積み重ねた中で、市民対行政という1対1の関係だけではない複数の関係者での協働のあり方への広がり生まれている事もお聞きした。ぜひ、改めて今の時代での「協働とは」どうあるべきなのかを市民と行政と一緒に学び合う場を作ることが必要だと思う。</p> <p>・ 人口減少、少子高齢化に進む青梅市がより豊かに生きられる街となるためには、行政と市民だけでなく、企業や商店も含め、協働していくことが求められている。ぜひ、多くの人が考えていけるような学びの場を作って欲しい。</p> |
| 委員 | <p>協働とされるもの・・・が各課よりあがっている報告とのこと、「協働」について改めて深める機会があってもよいのかなと思います。</p> |
| 委員 | <p>評価シート全体で気になったところ</p> <p>①P17大門市民センター文化祭 今後の課題改善策評価 団体2、青梅市2。センター文化祭はどこもきつと悩んでいる課題を正面から捉えて記載されている代表意見。</p> <p>P34 成木地区文化祭 課題は感じられないとの団体、青梅市意見もあり。きつと「ゆめなりき」の参画効果とは思いますが。</p> <p>②市民センター運営協議会 P19梅郷 形式化の評価 団体2、青梅市2。ながら文章では団体も青梅市も「議題が形式化」と書いている。</p> <p>P28小曾木 文章より。センターで実施できる事業が少ない。</p> <p>P46河辺 文章より。予算もあり意見が反映されない。</p> <p>これらの状況より、センター長会議も市民活動推進課で行っていると聞くと、各センター資料の交換、会議時間の記載など形式化しない工夫はあるか、また意見を聞いた後に反映できる方法はないのか。予算が無すぎではないのか。他のセンターの行事運営の上手いっている理由などの共有はあるのか。</p> <p>③P67 みどりのカーテン事業 今後の課題評価 団体1、青梅市3 記載文章からも団体側は協働事業と捉えていない感が高い。副賞や審査への出席だけに終わっているようだが、審査終了後に30分程度でも意見交換の場があれば団体側も、SDGS・地球温暖化防止への貢献などの話も出て、負担感だけでなく主体性が高まるのではないのか。</p> <p>④P9, P103 おそきだよりの発行、パソコンボランティア青梅 話題に出ていたと思うが、市民提案協働事業からの継続事業</p> |
| 委員 | <p>事業評価の今後の課題と改善策をお互いに話し合ったの評価があまり良くない事業があります、第三者を含め改善を進めないと協働事業が成り立たない、評価の良くない事業のコメントに青梅市側から特になしは問題では？市民センター事業は自治会加入者が対象になりがちなので地域の多くの市民に参加できる工夫が必要。</p> |
| 委員 | <p>この制度が出来たころから比較して協働の考え方が知っている方にとっては知っていることになってきたのかと思いました。</p> <p>また、企業でもCSRということで社会貢献活動に対して前向きな考え方が増えてきたのではないかという実感があります。</p> <p>その中で文化となっているか？ということに関してはそこはまだかと思っています。</p> <p>それは行政テーマに関しては市役所の方がもう少しかわってもらえるような流れができればと思っています。</p> <p>またその中で、市役所の職員の方の移動などもある中で当年事業ではなく、翌年の事業となると市役所の準備としてはありかもしれないですが、市民活動の運営する立場からだ状況が読めないのと、その事業に対しての熱量の維持が難しい状況になるとと思っています。</p> <p>何か良い手はないかとも思いますが、なかなか思い当たりません。</p> |
| 委員 | <p>市民センターの運営協議会委員を長年していますが、市民文化祭はセンター事業で支会を手伝いと認識でしたが、本会の委員になって協働事業の位置付けでこの事業に対する評価シートが存在することを知り我々は評価したことがない旨をお話しところ、以後改善はされましたが、他の件でも行政側の評価は平均点的な評価が多すぎる気が致します。</p> |
| 委員 | <p>とてもいい取り組みだとは思いますが、市民へ浸透していない。</p> <p>予算が少ないと感じる</p> <p>行政テーマには、もっと喫緊の解決が求められるようなものにするべきではないだろうか(例えば、次は熊を絡めるとか)</p> <p>今年度に関しては、実現性の低いものもあった。もっと担当課と絡むなど、担当課など更にフォローアップするべき。</p> <p>若年層にもわかりやすいようなテーマや、広報活動があるといいと思う。</p> |
| 委員 | <p>評価シートについては、担当課で協働事業ととらえているものを報告してもらっているとのことだったが、そもそも協働事業とは何か？どのように成り立つものなのか、市民行政共に一緒に学ぶ場が必要のように思う。そして課題の抽出を経て、何が協働されたら良いのか、改めて見出すことも必要と感じている。</p> <p>評価シートをみていると、PDCAサイクルに基づいた評価の中で、最後の課題を話し合ったという項目が、他の項目に比べて低いところが多い。実施後のまとめの中からみえてくるものがたくさんあると思うので、ここの点数があがってくるような取り組みが必要と思う。</p> |

2 青梅市市民提案協働事業の今後のあり方について（資料3関連）

| | |
|-----|---|
| 委員長 | <ul style="list-style-type: none"> ・基本的に「協働とは何か?」という視点をもっと明確にしていかなないと単なる助成金ようになってしまいがちである。上記の項目同様、学びの場をぜひ作って欲しい。 ・行政テーマと市民テーマという置き方は再検討してもいいのかなと思う。 <p>場合によっては、行政テーマのみで募集するのもありかとも思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いずれにしても、単年度で終わるものではないものもあり、もう少し長いスパンで取り組める仕組みにしてもいいのではないかな。 ・予算、応募時期など、一度再検討してもいいのではないかな。 |
| 委員 | <p>ポイントは2点かと思います。</p> <p>①青梅市の「協働」の創成期から充実期への移行を目指す時期と感じる今、行政職員が年度が開始してから事業が入って来る負担感を減らし、継続的に必要な事業は継続し必要性の薄まった事業は省いていくスクラップ&ビルドの手法を取り入れながらの前年度に事業決定することへの移行は検討すべきとは思いますが、ただ、それだけでは応募側の負担は長期的視野が必要のため応募増加にはつながらず、逆に応募減少になる危惧もあります。協働事業としての意識と補助金的な意識と各団体とも他の補助金事業とのバランスも考えながら申請を検討している実態があると思いますので、理念だけで動くことも難しいとも思っています。</p> <p>②人口減少が進む以上は行政のスリム化が必要になります。その中で行政職員のやりがいの増加につなげる（退職防止含）、また、市民の中でも60歳以降を中心に市民の生きがいの増加につなげる。</p> <p>青梅市の未来を考えたとき、この2点が改善に向かうよう活動を進めることで、市民も行政職員も現在以上に主体的に取り組む環境を「協働」の意識をきっかけに創ることで、よりよい青梅市になると思います。</p> |
| 委員 | <p>青梅市の協働事業の評価からもこれからは協創に変えて行く方向が今後の事業継続に必要と思われる。しかし青梅市側の負担も増える可能性があるなので理解が得られるかが課題。</p> |
| 委員 | <p>今後の在り方について</p> <p>自由テーマと行政テーマの考え方としてその価値の違いを出した方がいいと思います</p> <p>行政テーマに関しては行政が抱えているところの課題かと思うので最大20万円までの予算、自由テーマに関しては15万円までの予算</p> <p>考え方ですが、こんな感じの方がいいのではないかなと思いました。</p> <p>あとプレゼンですが、やはり市民活動団体から5分、市役所の職員から3分合計8分のプレゼンなどという形で行うことによって協働の考え方がいいのかなと思いました。</p> <p>助成金や補助金などとの違いをもっと出していききたいと思いました。</p> <p>と同時にもっと応募団体がたくさん現れるためにはどうしたらいいかを考えていききたいと思いました。</p> |
| 委員 | <p>市民と行政が対等な立場で協力するとのことですが、行政側の関わり方が対等に思えない面があるのでもっと積極的に関わりを持って頂ければと思います。</p> |
| 委員 | <p>若年層にも知ってもらうような広報活動が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNSにて活動内容を紹介・委員個人のSNSでも紹介・ポスターの掲載など <p>予算について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・増額が難しい場合、1団体あたりの上限を予算の限度額に設定・予算内で良い案を採択・実施・青梅の事業者へ声をかけたが、予算を理由に請わられることが多かった <p>実施期間について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単年度だと単発で終わるイメージ=続かない・複数年度にわたり実施などにした方がよい ・団体は可能性が広がるし、市側の協力の姿勢も更に市民にとってわかりやすくなる <p>柔軟性・少しマンネリ化してるイメージ・最前線で活動している青梅の事業者も応募できる、応募したいとなるような、柔軟な施策や対応が必要だと思う</p> <p>見える化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民からの見える化・成果の見える化・進捗の見える化・委員の人も見える化 <p>委員について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会の皆さんはみんな熱い想いを持っているのに、前に出る場が少ないので、そういう舞台があっても良さそうに思う <p>プレゼンについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分かりづらい団体が多かった、最低限のルールやフォーマットを儲けた方がわかりやすいと感じた。 |
| 委員 | <p>前回の会議で他の自治体の状況を伺うことができ、より制度について調べたい自治体を事務局でもピックアップしていることが今後には是非活かせたらと思う。</p> <p>青梅市の課題に対して、どんなことができたらいいのか？互いの強みを生かし市と市民が一緒になって取り組むためには、行政の意思決定や予算決定の流れと合わせて考えていく必要がある。市民団体がやりたいことの補助金にならず、協働にしていけるための仕組みに変わっていけたらよいと考えます。</p> |